



129号

2007/ 12 / 1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’
東京都町田市能ヶ谷町 1521-58 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli.web.infoseek.co.jp/>
Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp



2006.1.10.

中国雲南省北部の大方県の片田舎で 2006/1/10 撮影：掛川泰雄

‘わんりい’128号の主な目次

北京雑感その(20)「北京マラソン」 ……2
 私の調べた四字熟語(18)「金城湯池」 ……3
 中国を読む(47)「ものぐさ精神分析」 ……4
 松本杏花さんの俳句集「余情残心」より ……4
 アルゼンチン(4)
 イグアスの不思議は、地球の不思議 ……5
 私の四川省一人旅(12)・浮世辺絶山庄 ……6
 スリランカ紹介(14)「バス旅行—中編」 ……8
 中国語で歌う会・12月の歌「繡荷包」 ……9
 アフリカとの出会い(21) ……9
 大連だより①&②「日本語教師雑記」 ……10
 禅と水墨画の接点 ……12
 紫金草—日中を結ぶ平和の花 ……14
 「夢広場2007」参加報告 ……15
 ‘わんりい’掲示板 ……16

【ご予約下さい!】

とっても美味しい‘わんりい’新年会
食べ放題の、シュワンヤンロウ(羊肉のシャブ
シャブ)で2008年の新年を祝おう!

2008年1月27日(日) 11:00 ~ 14:00

於：麻生市民館・料理室

参加費：1,500円

定員：40名(‘わんりい’会員と関係者のみ)

申込み：‘わんりい’事務局(上記)

【年末に思う】

2007年は、まだ遠い先のことと思われていた地球温暖化が、もう待たない状態まで来ていることを誰しもはっきり感じた年でした。

科学の進歩による恩恵を有難く享受しながらも、人間は自然のありようと深く関わっているということを身をもって再認識させられました。

間もなく2008年を迎えます。地球の未来を見据えたら、もう、利害を争っている場合ではないでしょう。2008年が‘和’の年であることを祈りたいとおもいます。
(田井)

♪♪♪歌って広がる日中友好の輪「中国語で歌おう!会」♪♪♪

12月14日(金) 19:00 ~ 20:30 *録音機をお持ち下さい。

12月の練習曲「繡荷包」(山西省民謡) *歌詞は9ページ

於：まちだ中央公民館7F・第一音楽室

町田東急裏 109 ファッションビル 7F

JR 横浜線町田駅八王子寄り改札口徒歩 2分

小田急線南口徒歩 5分

指導：趙鳳英先生(中国人歌手)

●体験無料 初めての方は‘わんりい’事務局にお問合せ下さい。

聞くところによると、過日行われた北京マラソンは、北京オリンピックの予行演習を兼ねていたようですが、大変不評だったようですね。曰く、大気汚染が甚だしい；道路が整備されていない；観客のマナーが悪い、云々。これらの不満に対して、北京市政府はどう対処する積りなのでしょう？

大気汚染について、私は北京市内の幹線道路脇に立って、特に排気ガスのおいを感じたことはありません。私の感覚が鈍いと言われればそれまでですが、私としては、東京の環七、環八の交差点の方が、排気ガスのおいを強く感じます。これは、北京の排気ガスが少ないと言うのではなく、北京の道路が広くて、しかも建物が道路のすぐ脇まで迫っているところが少ないので、排気ガスが拡散するからではないかと思えます。目に映る景色が開放的なので、感覚の鈍い私は、排気ガスのおいをあまり感じないのでしょう。首都高を走っていて、圧迫感と排気ガスのおいを強く感じるのと正反対の現象です。

実際、北京に到着した翌朝は、朝起きると、マンションの12階にいて、空気のおいを感じます。そのおいが、排気ガスと言うより、石炭を燃やしたようなおいなので、何時も不思議に思います。石炭を燃やすような時期ではないし、第一、最近の北京市は、冬の地域暖房も、石炭使用を禁止していて、石炭のおいがするわけは無いのですから不思議です。室内で、こんなにおうのは、やはり北京の空気が汚れているせいでしょう。

おまけに、北京では朝、霧のようなモヤが立ち込めることが多いのです。北京の人達は「霧」と言っていますが、この臭いを嗅いでしまうと、霧とは思えません。専門家が言うには、やはり、これは霧ではなく「粒子状浮遊物」で、北京の大気汚染は、一時期より大分良くなって、二酸化炭素や窒素酸化物はかなり改善されているのですが、この「粒子状浮遊物」の除去が難物なのだそうです。

北京市が考えている対策の一つは、オリンピックの期間中、市内を走る自動車の数を削減する方法です。8月の初めに、ナンバープレートの偶数と奇数で、走れる日を限定する実験を4日間ほど実施しました。北京の人々に対して、このような規制が効を奏するのか、甚だ疑問でしたが、当日は、制限が意外にうまく行きました。バスやタクシーは規制を受けませんでしたが、これで実質的に、自家用車が半減したわけで、当日は、いつもの交通渋滞が無くなって、車がすいすいと走っていました。交通渋滞がなくなれば、排気ガスも少なくなります。人々が文

句を言いながらも、市当局の指令に従って、かなり良い結果を得たので、北京市は自信を深めたようです。

これで、期間中の交通渋滞と大気汚染の一時的解消は可能ですが、街中を走るマラソン競技にとってはまだ不十分との指摘に、北京市は、10月初旬に開催されたIOCの会議で、対応策を織り込んだマラソンコースを発表しました。マラソンのスタート地点は天安門、ゴールはオリンピック競技場と決まっていますが、その間に北京市自慢の場所や、空気の綺麗な場所を含めたコースを設定し、IOCの承認を得たのです。天安門から北西に向かって走り、中国のシリコンバレーとも、北京の秋葉原とも言われる中関村を通過して、北京大学の構内を抜けて、清華大学の西門から東門へ出て、環状4号線をオリンピック競技場に至るものです。中関村までは北京の経済発展を見せようコースですが、北京大学・清華大学は、中国の学問の中心で、特に清華大学は、最近共産党の指導者を多く排出している大学で、世界の一流大学の仲間入りをしようと中国政府が力を入れています。

清華大学の西門から東門までは、2キロ程あります。道の両側には木が生い茂り、緑のトンネルを作っています。大学の構内には、学生ばかりでなく、以前学校関係者だった人達も暮らしていて、全体で4万人近い人々が住む大きな町になっているのですが、全体が大きな森のようで、夏など、校門を入ると、気温が確実に2度は下がっているように感じます。季節には、カッコウや三光鳥の鳴き声がして、時にはキツツキのドラミングが聞けたりするのです。

このコースが発表になった時、私は、街中は空気が悪いと言われたので、「これならどうだ！」と北京市が挑戦して来たように感じました。しかも、この道は、特に念を入れて舗装工事をしています。7月の終わりごろから全面通行止めにして工事をし、2ヶ月以上かけました。工事に何時までかかるのかと不満を持っていた付近の住民も、マラソンコースになると聞いて納得していました。少なくとも、この2キロの道のりは、道路が悪いと言われることは無いでしょう。

オリンピックでマラソン競技が世界中に中継されて、森の中のような大学構内を見た人々に、北京の街中にもこんな美しい場所があるのかと再認識させ、教育に力を注ぐ中国を印象付けるのが、北京市の狙いだとすれば、とても良いコースだと思います。

因みに、オリンピックのマラソン競技は、女子が8月17日、男子が24日だそうです。

金城湯池を辞書で引いてみますと、次のように載っています。

三省堂「現代国語」：①非常に守りの堅い城と堀。(金でできた城と熱湯をたたえた堀の意味から)②非常に堅固な勢力範囲。

小学館「中日辞典」：金城湯池 難攻不落の城。”湯池”は熱湯をたたえた外堀。

そこで、実際にどんなところで使われているのか、ウェブサイトを覗いて見ましたところ、いずれも最近のニュース等の断片からですが、次のようないくつかの使用例がみつかりました。

▶例1

三井住友銀行はこのほど、名古屋を中心とする東海地方に出店攻勢をかける計画を固めた。東海銀行などが統合した三菱東京UFJ銀行の「金城湯池」で個人、法人業務の両面でシェア向上を目指す。

▶例2

マイクロソフトの金城湯池「オフィス」に挑む、無料の“オープンソース”ソフトが開発された。

▶例3

格差をもたらした小泉政治で自民党の金城湯池、牙城といわれる一人区の意識が変わってきている。

いずれも、「非常に守りの堅い自分の勢力範囲」という意味合いで使われています。

金城湯池の出典は、漢書(脚注)蒯通伝です。

紀元前の中国、始皇帝(脚注)が死に(紀元前210年)、暗愚な二世皇帝(胡亥)が即位すると、さしもの強大な秦の国も土台が揺らぎ始め、各地に潜伏していた戦国時代の旧六強国(韓、魏、趙、燕、齊、楚)の宗室、遺臣たちが、そろそろ頭をもたげ、いままで過酷な刑罰や重い租税、労役によって人々を苦しめた秦の打倒に立ち上がりました。そして、めいめいが王と称して兵を起し、郡県の長を殺し城市を占領して氣勢を上げたため、秦室の威令はまったく地に堕ちてしまったのです。

そんな中で、武臣という将軍が趙の旧領地(山西省)を平定して、さらに范陽(河北省)に攻め入ろうとしていました。そこで范陽の県令(知事)は、武臣が范陽を攻めるのを思いとどまるよう説得するために、論客の蒯通を武臣のもとへ派遣しました。

蒯通は武臣につきのような話をして説得に努め

ました。

「范陽を攻めて降伏させた場合、その県令を殺してしまうようなことがあれば、死を恐れる他の県令たちは、“降伏した上に、あんな目に遭わされるのはまっぴらだ”と、却って軍備を充実し、熱湯の池に囲まれた鋼(金)の城(「金城湯池」)のごとく鉄壁の守りを固めるでしょう。そうなればいかにあなたの軍勢が強くて攻め落とすのは大変です。しかし、范陽の県令を厚くもてなし、その上で彼を諸方に使いにやって説得させれば、范陽の県令は、いち早く降参したために、殺されるどころか、反ってあんなに手厚く遇されている。一つ自分も……ということになり、他の県令たちは戦わずに降伏するでしょう。そうすれば千里の彼方まで、わけなく平定することが出来るのではないのでしょうか。」

蒯通のこの説得に武臣も「なるほど」と深く感心し、范陽の県令を手厚く招き、方々へ使いに出しました。それにより戦わずに武臣に降るものが、華北だけで三十余城もあったということです。のちに、韓信も蒯通の言をきいて燕・齊の地を攻略しました。

かんじよ
漢書：

漢書は、中国後漢の章帝の時に班固、班昭らによって編纂された前漢のことを記した歴史書。二十四史の一つ。「本紀」12巻、「列伝」70巻、「表」8巻、「志」10巻の計100巻から成る紀伝体で、前漢の成立から王莽政権までについて書かれた。前漢書ともいう。「史記」が通史であるのに対し、漢書は初めて断代史(一つの王朝に区切った歴史書)の形式をとった歴史書である。「漢書」の形式は、後の正史編纂の規範となった。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

しこうてい
始皇帝：

始皇帝(紀元前259年1月～紀元前210年7月)は、中国秦の王ないし皇帝。姓は嬴、諱は政。現代中国語では、始皇帝(シーホワンディー)または秦始皇(チンシーホワン)という。

もともと秦の王であり、紀元前246年～紀元前210年の間在位して初めて中国を統一し、紀元前221年から中国史上はじめて皇帝と称した。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

金城湯池

(きんじょうち)

三澤 統

【私が調べた四字熟語】

18



自分が神経症だったために、その苦しみから抜け出さたくて心理学者になった著者が書いた、いわゆる患者による精神分析理論である。

著者の提唱した「唯幻論」もよく知られている。「唯幻論」とは、人間は本能が壊れてしまっ

うことだ。一応、外面で現実に対処するけれども、その外面はどんどん自分から離れていき、逆に自分の内側は本当の自分として捉えられる反面、現実とどんどん離れていき、非現実な誇大妄想や被害妄想として育ってしまう。で、結局、支離滅裂な行動を起こしてしまうわけだ。戦時中の分裂病的な日本は非現実的となった内側の声に沿って行動してしまったため、愚かな失敗を繰り返し、膨大な犠牲を払い、敗戦へと突っ走ってしまった…という著者の見解は、驚くほど説得力がある。非現実となった内側の声というのは、「大東亜共栄圏」「神風特攻」など挙げてみれば枚挙にいとまがない。ちなみに、アメリカや国際社会に認められることを熱望する、現在の日本は、自分の内側を押さえ込み、外面で生きていこうとしている、やはり精神分裂病者の症状だったりする…らしい。

日本の精神分裂病は、ペリーに無理やり開国させられたショックが発病のきっかけらしいが、ちなみに、お隣の中国は、たとえ死んでも自分たちのアイデンティティを守ろうと戦ったため、アヘン戦争の憂き目に合ったものの、精神分裂病は免れたという。日本がどこか自信がないのに対し、中国が堂々と自らを主張できるというのは、そこに違いがある、ということか。

(真中智子)

た動物であるため、各人、勝手に私的幻想を抱いてそれを拠所に生きており、その幻想のなかで部分的に共同化したものが常識とか文化とか言われて、根拠もなく守られている…という理論だ。

で、もちろん、日本では日本のなかで共同化された幻想が、日本文化として、日本語として幅を利かせている。著者曰く、日本国民は精神分裂病的である、と。分裂病というのは、簡単に言うと、外面と内側が分裂してしま

松本杏花さんの俳句「余情残心」より

晩菊や慈愛の鐘の反響す

wǎn jú ào hán shuāng
晩菊傲寒霜
cí ài zhōngshēng yōuyōu xiǎng
慈愛钟声悠悠响
huā jiān cháng huídòng
花间长回荡

季语：晩菊，冬。日本出版的《岁时记》中，不少将晩菊列于秋季。大概异国的晩菊开放得更迟吧，于是成了冬季的象征。

赏析：我国唐朝元稹《菊花》诗中咏道：“不是花中偏爱菊，此花开尽更无花。”可见菊已是岁末之花了，而晩菊开得更迟，更令人怜爱。

干し柿の甘くなれなれ霜の夜

shìbǐng yì fēngān
柿饼已风干
suān sè jìn xiǎo wèi gāntián
酸涩尽消味甘甜
hēiyè bái shuāng qián
黑夜白霜潜

季语：霜夜，冬

赏析：柿饼风干的过程，也是糖化的过程。此句中的霜夜，使人联想到柿饼上的白霜。虽然二霜不同，但其启示是：当白霜泛起时，才可食用哟！不耐住性子，急于求成只会尝到酸涩。

此句明写柿饼，暗喻人生，寄物抒情，充分发挥了俳句“象征”的特征，当属佳句。

ミルク色の霧と、水の大きな音響 イグアスの不思議は地球の不思議

嘉陽ひろこ

香港映画「ブエノスアイレス」で、レスリーチャンとトニーレオンが、ポンコツ車に乗ってイグアスの滝へと目指すシーンがある。砂埃舞い散る自動車道路でエンストを起こした車を蹴っ飛ばし、言い争う2人……。果たして、彼らはイグアスへたどり着いたのかどうか、私の記憶も定かではない。

私とSは、K夫婦のお陰で彼等の住居からすぐの国内線空港からひとつ飛び、迷うはずもなくイグアス空港へと到着。生憎の雨、日本語堪能なガイドとホテルで待ち合わせ。待っている時間の長さに、少々不安を感じながら止みそうにない雨の音を聞いていた。

イグアスの滝は、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイの3国の国境地帯に位置する。イグアス川を挟んで北のブラジル側に行くにはビザが必要という。Kは、アルゼンチン側からの観光で充分、迫力では勝っているよ、と言うのだ。かつてアメリカのルーズベルト大統領夫人が、この滝を見て「かわいそうなナイアガラの滝」と記帳したという。果たしてどちらの国側から見たのであろうか。

ガイドのマイケルさんがやって来た。ブラジル人という。入国審査には時間がかかるので、と前置きした。濃い顔立ちの自信に満ちた態度、堂々とした体躯の彼は、イグアス見学は明日1日で充分であること、そして今日これから3つの国の国境と、プエルト・イグアスの町を案内するが、それには別料金が必要という。彼は以前日本のサッカーチームのコーチとして、九州に滞在していたそうで、なかなかの日本通である。「私はキョーカシヨを持っています」、教科書？日本語の？常に勉強している、という意味かな？「はあ…」と曖昧な返事を繰り返していたが、教科書ではなく、許可証（ガイドの）の意味であると理解した時は、Sと顔を見合わせて大笑いしてしまった。

雨は相変わらず異国のホテルの屋根を打ち続け、翌日も容赦なく降っていた。安物のビニール合羽に傘を持ち、乗用車で迎えに来たマイケルさんと滝の入口へと向う。

滝の入口、ビジターセンターで車を降り、入園料金を支払い、いよいよ世界の大瀑布イグアスの滝観光だ。トロッコ電車で僅かな時間乗車し、川に架けられた鉄骨の展望橋を渡り、雨なのか霧なのかびしょ濡れ

になりながら、ヨロヨロと歩く歩く。一番の見どころは“悪魔ののどぶえ”、轟音とともにすさまじい水しぶき、Sとの合意もとれない。空も地もミルク色で、水といえないような怪物がのたくり廻って、更に地下へと私たちを引きずり込む……。地球の何処にこの水量を埋蔵しているのだろうか。手も口も足さえもかじかんで、カメラのシャッターが押せない。ただでさえ、雨に濡れないように上着の下に入れてあるのに、ここで押さずにどこかで慌てると、杖を何度も転がしてしまった。

マイケルさんが次の見学地を案内して歩くその後を、私たちもゆっくりと歩く。いつの間にか雨は名残だけで止んでいた。このイグアスの滝一带に、生息する動植物や鳥類の説明を聞きながら、いくつかの滝を見て簡単な昼食を摂った。天気がよければ、水しぶきに架かる虹が見れただろうし、青空に映える滝の美しさにも感動しただろう、がしかし、ひとたび洪水が押し寄せると鉄骨の橋もひとたまりもなく壊され、流されてしまう、自然の脅威や成り立ちを、目のあたりにして、つくづく地球の不思議を感じたのだった。

少し早めの便でブエノスアイレスへ戻る。そして翌日の夕方には、エアーカーナの乗客となって、地球の裏側、日本へと帰っていった私とSのアルゼンチンの旅はこれで終わる。

【‘わんりい’の原稿を募集しています】

‘わんりい’は、‘わんりい’の会員と関係者の皆さんから寄せられた原稿でまとめられています。

‘わんりい’の頭には日中の冠を載せていますが、中国に限らず各地（主としてアジア）で体験された楽しい話、見聞した面白い話、美味しくて珍しい食べ物の話しなど、気楽にお寄せいただいているいろいろな角度から諸国の文化に触れてみたいと思います。

紙面が16ページと限られていますので、掲載まで暫くお待ち頂くことがあります。また、紙面の都合で作者のご了解の上、余儀なく手を入れたり、カットさせて頂いたりすることもありますのであらかじめご了承下さい。

尚、原稿の締め切りは20日ということにしていますが、編集の都合上、早めに頂ければ有難いです。（田井）

温泉に戻ると、アーロン達も戻っていた。

再び散歩に出かけるという彼らに誘われ一緒に表に出ると、ちょうど向こうから歩いて戻ってくるウィンが見えた。手を振って合流すると、今度は4人揃って歩き出す。みんなそれぞれの稲城を楽しんだようだ。

アーロンは写真好きなのか大きなカメラを首からぶら下げ、あちこちでシャッターを切っている。チベットの経文が彫り付けられた岩の前で写真を撮りながら、「これは『オン マニ ベネ ホン』と書いてあるんだぜ」と教えてくれた。彼はチベット文化に興味があるようでなかなか詳しい。

しばらく歩いているうち俄かに空が曇ってきたと思うと雨がパラつきはじめた。合羽を着るほどでもないだろうと思っているうちに本降りになり、雨にぬれた衣服は急速に体温を奪っていく。先程まで炎天下で暑さにうだっていたのが嘘のようだ。急いで温泉まで撤退したが、戻った時には再び晴れ間が出てきていた。まったく高山の気象は変化が激しい。

「よーし、雨が上がったから今度はあっちの山を登ってみよう。」

「え～!! まだ行くの～!?!」

まったくアーロンはタフな奴だ。大人しそうな感じなのに、そんなアーロンに付いて行ってるシャオチンもタフな女だ。タフさなら私も自信があるが、今日もう十分だった。雨に濡れた身体が薄ら寒くなっている上に、さっきから温泉が呼んでいるのだ。もう我慢できな～い!!

「みんな行って来て。私は温泉に入るから!」

三人が出かけて行くのを見送ると、私は宿の女将さんに温泉に入りたいと告げた。

宿の庭には個室に別れたお風呂場が並んで造られており、若女将が出てきて「ここは準備ができてるわ」と一部屋の鍵を開けてくれた。陽の差し込む明るく清潔な浴室は手前に置かれたベンチに荷物や着替えが置けるようになっていて、浴槽には綺麗なお湯が満たされていた。触ってみると丁度いい湯加減だ。お湯につかれるのは久しぶりだ。身体を浸すと、あまりの気持ち良さに自然に声が漏れてしまう。

湯船に寝そべるようにつかりながら天井を眺めると、木造の屋根の隙間から差し込んでいる陽の光がいく本かの筋になって浴室に降り注いでいた。溢れるお湯が外に

流れ出るように、壁に開けられた排水口から覗ける外の景色は、どこまでも緑の草原が続く美しい風景だ。

ああ・・・幸せ・・・

浴槽の縁には蛇口が2つ取り付けられてあった。ひとつの蛇口からは宿のすぐ脇に湧き出してる源泉から引かれた温泉が、もうひとつの蛇口からは裏の山から流れてくる冷水が絶え間なく流れ出しお湯を溢れさせている。まさしく本物の『源泉かけ流し』の温泉だ。日本の温泉マニアが聞いたら羨ましがるに違いない。なんて贅沢な幸せだろう。

温泉と冷水の蛇口をひねって湯量と水量を調節すると自分の好みの湯温に調節できた。

しばしお湯につかれる幸せに浸った後、ベンチに置いてある荷物の中から一冊の文庫本を取り出した。

成都で泊まっていた宿で借りてきた物だ。どこの国でも長期旅行者が集まるような安宿には本棚があり各国の旅人が置いていった文庫本などが並べられていることが多い。読み終わってしまった自分の本と取り替えることも出来る。一人で過ごす時間の長い一人旅には一冊の文庫本が良い友達になってくれるのだ。食事の時に料理が運ばれてくる間や、なかなか来ないバスの待ち時間、ちょっとした休憩でお茶を飲む時などのんびり読書するのはいい気分だ。そして普段の生活でもゆっくりお風呂につかるのが好きな私は、湯船につかりながら本を読むのが大好きなのだ。

成都を出てから毎日が忙しくてまだ取り出したことのなかった文庫本を、ぬるめに調節した温泉に身体を浸して読み始めた。ああ～。最高に幸せだあ・・・

しばらく読書に耽った後、身体を洗った。洗い場にあたる場所はないので、欧米式に浴槽の中を泡だらけにして髪と身体を洗う。洗い終わった後はお風呂の栓を抜き、一度全部お湯を流してしまうと温泉の流れ出てくる蛇口のお湯で身体をすすぎ、浴槽内に残った泡を洗い流すと再び栓をして新しいお湯をためた。

のんびり入浴しているうちに、いつしか日も暮れてきて個室温泉の中にも灯あかりが灯ともった。きっと宿が自家発電を始めたのだろう。昼間の木漏れ日温泉も良かったが、薄暗い裸電球の温泉も秘湯ムードが盛り上がっていい感じだ～。久しぶりのお風呂があまりに気持ち良くて、結局2時間も温泉を満喫してしまった。

私が個室温泉から出ると、丁度アーロンとシャオチンも上気した顔で髪をタオルでぬぐっている所だった。浴室から出てきた私を見た二人は、「え～！今まで入ったのお～？」と驚いていた。「俺達は山に登って帰ってきたから、風呂に入ったんだぜ」

宿の縁側の柱には鏡が取り付けられ、ドライヤーが置かれていて自由に使えるようになっていた。こんなところにも宿の人の心遣いが行き届いている感じた。私の髪は長いので、夜間冷え込むこのような土地では風邪を引かないようにしっかり乾かしておきたいのだった。素晴らしい。なんて気が利いている温泉なんだ～。

ドライヤーで髪を乾かしていると、向かい側の浴室からチベット人男性が二人温泉から上がってきた。庭には派手な飾りのつけられたバイクが二台停められている。稲城の街から温泉に入るためにやってきたのだろうか。以前チベット系の間はお風呂に入らないなどと書かれているのを何かの本で読んだことがあるけど、あんなの嘘だな～。

バイクに革ジャン姿の彼等が、鏡に向かって首を傾け櫛で髪を整える姿が、絵に描いたような伊達男ぶりで面白い。見つめていると照れくさそうにニコッと笑った。

お客が使った後の個室温泉はすぐに宿の人がお湯を落とし、ブラシでこすって掃除していた。掃除がすむと又栓をして次のお客のために新しいお湯を満たしておくのだ。ここの温泉は日本よりずーっと清潔だ。

宿の部屋がある二階に上がるとお風呂上りの三人がテラスのベンチでくつろいでいた。アーロンは宿の人に分けて貰ったらしいチベット人のお酒をチビチビやり、ウインは熱心に今日の出来事を日記に書いている。

シャオチンが「温泉で洗うと髪がツルツルになるよね？」と言うので自分の髪を触ってみると本当にいつもよりしなやかだ。私も並んで座ると、ゆっくり暮れていく景色を眺めながらみんなと旅の話などを語り合った。

同じ土地で会える旅人同士は初めから志向するものや話題に共通性があるので、すぐに打ち解けあえてしまう。アーロン達やウインにも既に今朝知り合ったばかりとは思えないくらいに親しみがわいていた。新しい友達に会うことも出来て、今日も一日楽しかった。おだやかな夕暮れだった。

完全に日が沈んだ頃、階下から宿の女将の呼び声が響いた。食事の用意が出来たと呼んでくれているのだ。家族の暮らしている一階の部屋に置かれたボロボロのソフ

アーに並んで腰掛けると、テーブルの上にはスープと炒め物とご飯が鍋ごと置かれていた。決して豪華な食事ではなかったが、料理屋とは一味違う心のこもった家庭料理の味はとっても美味しかった。

テーブルの周りを幼い子供が走り回り、向かい側の椅子に腰掛けている年老いた女将がニコニコしながら、たくさん食べなさいとお替わりを勧めてくれる。宿の宿泊客というよりは、知人の家に遊びに来ているみたいな雰囲気だ。

いつの間にか部屋の隅に若い大人しそうな男性が座って微笑んでいる。きっとこの宿の若旦那なのだろう。この家族はみんなニコニコしている。幸せなんだな。

お鍋をスッカリ空にすると、宿の女将さんがバター茶を振舞ってくれた。お茶というよりはしょっぱいスープのようなイメージのこの飲み物は、実はちょっと苦手なのだが、ここの宿のは味が濃くてコクがあり、いつもより少し美味しく思えた。三年前と今回の旅でチベット民族の人たちに好意を持っていた私は、どこに行っても振舞われるこのバター茶も好きになりたいものだと言っていたのだが、もうちょっとで好きになれそうだ。

食事を終えて宿の人と話しているうちにそろそろ9時になろうとしていた。

明日は4時に出発予定だ。3時半には起きたいので、もう眠ったほうがいだろう。二階の部屋に戻り明日の朝起きたらすぐに出来るように荷物を準備していると、階下から年老いた女将がお湯の入ったポットの他にホローの壺のようなものを持って上がって来て「夜は暗くてトイレに行くのが大変だから」と壺を部屋に置いていった。一瞬意味が分からずキョトンとしてしまう。

「・・・つまり、これで用を足すって事～!？」女将の心使いはありがたかったが、思わずウインと顔を見合わせ笑ってしまった。

翌朝三時半に合わせていた目覚まし時計が鳴った。

手探りで懐中電灯を探り当てるとすばやく身支度をやる。高度の高いこの土地は夜間から早朝にかけてはかなり冷え込むのだが、ここの宿ではいつでも湧き出している温泉で朝からお湯で顔を洗うことができるのだ。なんという幸せ。

今度はちゃんと約束の4時にタクシードライバーの車がやってきた。さあ、いよいよだ。今日こそ本当に亜丁に向かって出発するんだ。前部の助手席にアーロンが座り、後部座席にシャオチン、ウイン、私が並んで乗り込むと車は真っ暗な道を亜丁に向かって走り出した。 (続く)

前編では、マンちゃん一族の旅行のために借りたバスはコロンボとゴールを往復している路線バスと書きました。旅行の話は少しの間横に置いて、ここでスリランカの路線バスと運転手気質について書こうと思います。

路線バスには色々な種類があります。インターシティと呼ばれる主要ターミナルだけしか停車しない冷房とTV完備の特急バスから、自然換気だけの各駅停車バスまであります。これらの路線バスには公営と民営だけでなく、もぐりの無認可バスまで存在します。もぐりのバスは神出鬼没で、走るルートもその日の運転手の気分任せで、始発駅と終着駅はいつも同じですが途中のルートが毎日のように変わります。

料金はインターシティの方が高い事は言うまでもありません。インターシティは客席数しかお客を乗せないの、込み合うことも無く快適に乗車できるのですが、料金が高い分だけサービスを良くしようという事なのか冷房が効きすぎているために、熱いスリランカだというのにわざわざ上着を用意して乗車する人もいます。

各停バスの料金はインターシティの半分程度です。こちらの方は前編でも紹介したように、お客は停留所以外でも走っているバスに飛び乗ったり、飛び降りたりと自由気儘に利用しています。朝晩のラッシュ時間にはお客が入り口から車外に溢れるほど詰め込むので車内では身動きができなくなります。

不思議な事にどんなに身動きできないほど混んでいても車掌はお客を掻き分けて料金を取りに来ます。どうしても近寄れない時にはお客さん同士が手渡しリレーで車掌へ料金を届けます。お釣りがある時には逆に車掌から手渡しリレーでお客さんに届けられます。スリヤ痴漢もお客に紛れ込んでいて、現場を見つかり袋叩きにされて車外に放り出される光景をしょっちゅう見かけます。各停バスの方がスリランカ人の日常生活が見られるので、僕はこっちの方が好きなのですが、暑いのには参ってしまいます。冷房が無いために、乗客全員が汗まみれでこれこそ本場のサウナバスになってしまいます。

使っている車両は、インターシティは日本製の中古バス、各停バスの方はインド製バスかインターシティからお下がりの日本製中古バスと考えて間違いありません。日本製の中古車には日本で使っていた当時のままの装備と日本語の広告が残されています。例えばどこかの市営バスがそのまま使われていて、前面上部の行き先パネルには〇〇市役所行きと表示されていたり、車内に日本語で書かれているワンマンバスの降車押しボタンや非常口の

表示があったり、側面に〇〇百貨店やら〇〇海苔店の広告がそのまま残っていたりします。何故そのままかと云うと、日本から直輸入の証明になるからで、転売する時に高く売れるからだそうです。町田にお住まいの方にはお馴染みの桜美林学園の青と黄色に塗られたバスもあのままの姿でスリランカの道路を走っていますので、スリランカに行く機会があったら是非とも探して下さい。

日本製とインド製バスには冷房以外にもサスペンションと座席のクッションに大きな違いがあります。日本製もかなりくたびれていますが、インド製ではサスペンション、クッションともに役目を果たさずガタガタです。マイクロバスの場合には、昇降口のある側に乗客が集中する為にこちら側のサスペンションがいかれて、常に傾いて走っているのは日本製・インド製ともに同じです。今回の旅行ではインド製のバスだったために舗装道路ではあまり感じませんでした。脇道にそれて未舗装道路に入ってからはお尻にかなりの痛みがありました。

さて、家族旅行のバスがようやく出発した車内では、通常ではお坊さんの指定席である一番前の席に道案内役のマンちゃんが座りました。因みにスリランカでは一番前の席が最上席と考えられています。

他のアジア各国と同様にスリランカのバス運転手のマナーは悪く、スピード違反や無謀な追い越しはあたり前、ブラインドカーブでも速度を落とさずに突っ込むので、そこかしこで交通事故が発生します。このような事故は正面衝突なので当然の如く運転席と共に一番前の席が最も危険なのですが、^{まじな} どういう訳か最上席とされています。お坊さんは事故よけのお呪いなのか、単に景色が良く見えるからでしょうか？ どんなに混んでいても、お坊さんが乗車してくると前の席に座っていた乗客は素早く席を譲ります。複数のお坊さんが乗ってきた場合には、その人数分だけ前の席の乗客が席を譲ります。混んでいる車内を掻き分けて一番前まで行くだけでもご苦労な事だと僕は思うのですが、乗客全員が協力して体をずらしてお坊さんの通路を作り、お坊さんも乗客を掻き分けて前に進みます。

次に不思議なのは運転手気質です。どんなに運転マナーの悪い運転手でも、路線にあるお寺の前ではバスを止めてお祈りをします。たいていの運転手には個別に信奉しているお寺があり、そのお寺の前ではその日の最初に通過する時にお賽銭を置いて長い祈りを捧げます。何をお祈りしているのか聞いたところ家内安全と健康、そして交通安全だそうです。

ところが交通安全のお祈りを終えるや否や、ウィンカー

も出さずに路上に飛び出して行くのには驚きです。どうやら安全は運と対向車線をやって来る相手方運転手の力量に頼られているようです。何故こんなに先を急ぐかと言うと、民営ともぐりバスの場合には運転手イコール経営者である事が理由と考えられます。つまり、1往復でも多く走れば、それだけ収入が多くなるので形振り構わずに突っ走ると云うことです。

旅行の幹事役として最上席に座れただけで、集合時間

に遅れて長老達から油を絞られた事もすっかり忘れて、マンちゃんをご機嫌で運転手にあれやこれやと指示しています。お酒が少し入ってからは益々機嫌が良くなって、席を立てて車内を動き回っては何やらまくし立て、歌い、踊り、笑いとは忙しくしています。

バスと運転手の話を書いているうちに、旅行の話を書くスペースが無くなってしまいました。車中とピクニックの様子は次号で書く事にします。

アフリカとの出会い (21) ジャムフリ・デイ(ケニア独立記念日)

竹田 悦子 アフリカン・コネクション代表

今日はケニア「ジャムフリ・デイ」をご紹介します。

「ジャムフリ・デイ」は、1963年12月12日、ケニアがイギリスの植民地から独立した日をお祝いする日です。今年で44歳、まだまだ若い国といえるのではないのでしょうか？私がケニアにいた4年前、ナイロビのニャヨスタジアム(国立陸上競技場)で行われた式典を見に行きました。

軍隊を持つケニアの、この国家的な式典は、年に一度のお祭りをするような騒ぎです。早く起きて競技場へと急ぎ、なんとか席を確保しましたが、あまりの人の多さに(当たり前ですがほとんどアフリカ人)自分だけが日本人で目立っているような気がしました。空軍による航空ショーで幕をあげ、中国の雑技団のショーが続き、観客の興奮はどんどん高まります。そして軍隊のパレード。制服といい、音楽といいまさにイギリスのパレードと同じです。それも

そのはず、彼らはイギリスへこのパレードの練習をしに行っているとか。

そして各国大使館の紹介のあと、最も盛り上がる大統領の入場とスピーチ。なんと大統領は、小型の飛行機で競技場の真ん中に着陸するのです。常日頃、大統領の「政策のここが悪い」「全く国民のことを理解しない」「政権交代だ!」と言っているケニア人なのに、やはりこういう日になると「大統領万歳!」「永遠に!」などと賞賛の嵐。なにかと問題の多いアフリカの国家ではあるけれど彼らの「愛国心」を見せ付けられた一日でした。

日本でも12月12日、ケニア大使館の主催で「日本にいるケニア人のための」独立記念日のパーティーが行われます。ケニア人の友人から招待状を受け取ることで日本人も参加できます。

《绣荷包》 山西民歌

1. 初一到十五，十五的月儿高，
那春风摆动，杨呀杨柳稍。
2. 三月桃花开，情人捎书来，
捎书带信信，要一个荷包袋。
3. 一绣一只船，船上张着帆，
里面的意思，情郎你去猜。
4. 二绣鸳鸯鸟，栖息在河边，
你依依我靠靠，永远不分开。
5. 郎是年轻汉，妹如花初开，
收到这荷包袋，郎你要早回来。

绣荷包: 荷包は小物を入れる小さな袋のことで、绣が付くと刺繍を施してある小袋の意になる。
遠く離れた恋人(男性)から「荷包」がほしいと言う手紙を貰った女性が、愛情を込めて「荷包」を刺繍しながら歌っています。

‘わんりい’の会員になりませんか

年会費:1500円 入会金なし

郵便局振替口座:0180-5-134011 ‘わんりい’

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催しています。また、2月と8月を除いて年10回、会報‘わんりい’を発行しています。

入会はいつでも歓迎しています。会費は、おたより制作費と送料及び活動のサポートに当てられています。

活動の様子は、おたより又は‘わんりい’HPをご覧ください。問合せ:042-734-5100 (事務局)

▶ ① 着任

8月26日、東京から大連に到着した。飛行時間は2時間半ほどで、思ったほど長い時間ではなかった。先任者の浄土信之氏と学校関係者の出迎えを受けて、赴任先の「大連外経貿日語学校」へ向かった。学校は莊河市というところであり、大連空港から2時間ほどのところである。想像していた以上の遠さである。かなりの距離があった。行政上は大連市区域に入るようである。

学校は街の中心から少し離れた岡の上にあって、遠くに小高い山々を見渡すことができ、学校の教育環境としては申し分ないところである。しかし、学生も教員も全員寄宿舎で生活するため、24時間学校の中にいて、少々窮屈な感じがしないでもない。このような生活は初めてなので、戸惑うことばかりだ。何と言っても、心配は言葉の問題である。もちろん、中国語は不完全だし、日本語が十分通じるかが気がかりである。しかし、いざ着任してみると日本語を話す先生がたくさんいるようなので、何とかなるだろうと安心した。

学校は9月1日(日)からスタートした。1日は日曜日であったが、授業が行われた。新学期の開始だからといって、始業式のようなものは一切なく、そのまま授業が開始された。本校は日本の短大に相当するようで、学生の年齢は17、8歳から21、2歳あたりまでで、中には27歳という学生もいる。いったん働いた後、勉強したいとか仕事上の必要から入学したという。学科は日本語、韓国語、コンピューターの3コースあり、私が教えるのは日本語コースである。全部新生入生である。4クラス担当することになった。同じ日本語コースでも、2年制と3年制とがある。

月曜日から本格的な授業が行われるのかと思っていたら、新生入生だけ月曜日から金曜日まで軍事訓練があり。1週間丸々授業がなかった。この1週間、地区の軍関係者の指導で軍事教練が行われた。それは国慶節の北京天安門広場で見えるようなパレードでの行進の練習そのものである。中国の学校では必修とのことである。日中の炎天下でも誰一人文句を言わず、もくもくと訓練に励んでいた。この成果は8日(土)に披露されることになっている。その日は入学式で、式の終わっ

た後でクラスごとに、訓練の成果が披露されるそうだ。

入学式は簡単なもので、淡々と進められた。最初に国歌が流され、国旗の掲揚があり、ついで各クラスごとの代表学生による決意が述べられ、その後学校関係者や来賓の挨拶があるなど、全部で1時間くらいかかっただろう。この後、5日間訓練を受けた成果を披露する時間となり、クラスごとに5分間程度のデモンストレーションが行われた。特別優劣をつけるというわけではなかったが、学生たちにとっては大変緊張を強いるものであったようだ。式の後には、新入生全員での写真撮影がおこなわれた。私たち外国人教師も加わるよう請われて、撮影に臨んだ。日本と比べると、何もかも異なり、驚くことばかりだが、しかし、所詮比べてみても仕方がないことで、ここは中国だということをも十分頭に入れておかなければならない。

こんな風にして1週間はあっという間にすぎてしまった。これからどんな風になっていくのか楽しみでもあり、同時に少々不安もないではない。

▶ ② 日々の暮らし

1週間が終わり、9月10日(月)は「教師節」で学校は休みである。「教師節」というのは毎年この日に教師の労をねぎらうために設けられた祝日(祝日と言っても教師だけが対象であるが)で、今年で23回目になるそうである。学校は休みのため昼間の授業はなかったが、夕方は学生たちが各教室へ集まり、担当の先生方を招いて、教師へのお礼の言葉を述べたり、歌を歌ってくれたりした。私もいくつかの教室を訪れた。ある教室では学生たちから花束を贈られ、大いに感激した。本来ならこの日に先生方への慰労パーティが開かれるそうであるが、学生たちが集まって先生方を招くことになっているために、前倒しして8日(土)に開催された。市内の大きなホテルの宴会所を会場として、先生方のみならず事務関係の職員まで招かれて開かれた。

開催時間は6時と連絡を受けたが、ある中国人同僚は5時だと言い、別の同僚は3時だと、また6時などという人もいるなど、どういうわけか皆ばらばらである。どれを信じていいのか分からなかったが、5時に事務の人が車で送ってくれたので、ホテルに向かっ

た。会場に着くと、大方の方々はもう来ていて、先生方がいくつかのグループに分かれてトランプをしていた。見ていると、相当の熱の入れ方である。時間がまちまちだったのは、自分の都合でトランプをやる人は早めに来るために3時と言い、やらない人は5時と言っていたのでなかろうか。自分の都合で皆ばらばらなことを言うのは何といっても面白いと感じた。

最初の1時間はまず理事長、学校長その他数人の先生方の挨拶があり、そして食事となった。中国人のお酒の飲み方は相当なもので、ビールのみならず相当強い白酒(50パーセントもある)をどんどん浴びるように飲むなど、もともとお酒に弱い私にはとてもついていくことは出来ない。しかし、中にはお酒の飲めない先生方もいて、こういう先生方は肩身が狭いようである。食事が一段落すると、今度はカラオケである。中国式宴会では必ずカラオケがつきもので、私も日本の歌を歌わせられたり、踊りに引っぱり出された。何分まるっきりカラオケ嫌いな者にとっては苦痛の時であった。

前回、軍事教練のことを書いたが、その5人の教官がこの席に招かれており、このような席にまで招かれているのには驚かされた。たまたま私の隣に座ったのはまだ20代の軍人で、あまり話しはできなかったが、人民軍の軍人を身近に見ることが出来、彼らの人となりを観察出来た。このような場所にまで招かれているのを見ても、中国では軍人がどのような立場か何となく分かったような気がする。

ここで9月1日から始まった授業の様子を紹介したい。私が担当しているクラスは1年生4クラスであるが、全クラスとも日本語は全くの初心者で、この学校に来て初めて学ぶという学生ばかりである。あるクラスは比較的年齢の高い学生が集まっていて、最高27歳という女性もいる。彼女は何年か日本で暮らしたことがあり、やさしい日本語ならば理解でき、授業中も学生たちが私の言葉を理解出来ないでいると、あれこれ説明をしてくれて、彼女のような女性がいるのが心強い。

学生が少ないクラスは19人、多いクラスは40人とみなばらばらである。各クラス4時間ずつ担当している。学生たちの出身地は地元の庄河市のみならず遼寧省全土、河南省、湖北省、安徽省、吉林省、黒龍江省などにわたり、遠隔地から来ている学生が非常に多い。学生はたとえ地元出身であっても寮に入り生活するこ

とになっている。土日曜日は休みなので、地元出身の学生は家に帰るものもいるようである。

学生は全くの初心者ばかりなので、「あいうえお」の書き方と読み方から始まった。これは中国人の先生方が教え、その他の初歩的な説明や練習も彼らが担当し、私は授業に必要な表現や基本的な語句をまず教えた。たとえば、「5ページを開いてください」、「分かりますか」、「質問がありますか」、等の基本的な表現である。

彼らにとってはまず日本語のひらがなとカタカナの違いや発音が大変のようだ。しかし、1ヶ月位を過ぎるとひらがなとカタカナの区別は出来るようになり、この点では問題はなさそうである。ただ発音がかなり難しいようだ。中国では暗記することがかなり重要で、中国人教師の授業では皆が声をだして練習することが最優先で、毎朝授業の前での学生たちの一斉に練習する大きな声があちこちの教室から聞こえてくる。

教科書は『みんなの日本語』(スリーネットワーク)というテキストを使っている。これには全然中国語の説明はない。そのため私にとっては少々使いにくい。私が使っているものは日本から取り寄せたものようであるが、学生たちが使っているのはすべて中国でコピーしたものらしい。著作権の問題がどうなるのか少々心配である。

中国語ではすべて漢字で表すが、この点で中国の学生は日本で使われている外来語の習得が大変苦手である。例えば、「アメリカ」と言うと、私たちはどこの国をあらわすかすぐ分かるが、中国語だと「美国」と書き、「アメリカ」という元々の発音とは全く離れているため、「アメリカ」と言っても「美国」とは結びつかない。「コンピューター」も中国では「電腦」と書くために、英語を知らない学生たちにはとっては「コンピューター」と言っても分からない。こんな風にカタカナで表す言葉が彼らには難しいようだ。

現在2ヶ月近く経って感じることは、彼らの学ぼうとする熱意に敬服させられることである。もちろん授業中居眠りをしていたり、内職をしていたりする学生もいるが、それはほんの一握りの学生だけである。大方の学生は教師の言う言葉を一言も聞き漏らさないように、教師の一言一動を見ている。それだけでもやりがいを感じる。こんな風にしてここでの仕事ももう2ヶ月が経とうとしている。

禅と水墨画の接点

満 柏 (中国画家)

禅が水墨画に大きな影響を与えたと言っています。

多くの学者がそれを論じましたが、鈴木大拙の『禅と日本文化』がもっとも知られています。氏は、禅の精神と水墨画の精神とは超越性と孤絶性で一致するといひ、禅の悟りの境地と水墨画を描く精神はともに直観力に基づくところから、水墨画は禅によって生み出されたと断言しました。しかし氏は、禅の聖的な面のみを強調して、俗的な面を考えていませんでした。実は禅の思想には極めて現実的な要素があり、俗的な面も無視できないのです。「日々是好日」という有名な禅語があるように禅は現実を肯定しており、生活そのものを修業の一部とみなしています。また氏は日本文化にわび、さび、および同様な特徴しか認めませんでした。日本人は確かに、桂離宮のような‘わび’‘さび’の美を好みますが、東照宮や金閣寺のような絢爛たる美も日本人に愛されていたのです。相反する様式と相反する価値観は日本文化についての特筆すべき点と思われます。

中国の伝統思想の特徴の一つに現実主義があります。仏教は中国に伝来して以来、現実的、実践的になり現世を重んじるようになりました。実践的であり直観による悟りを評価する禅はもっとも中国的であると思われます。「行、住、座、臥皆禅定」の言葉が表すように、現実を肯定する考えが禅の

思想を貫いているからこそ、禅は、宗教の教義を俗の領域へ広げ、芸術への寄与が可能となったとも言えるのです。

仏教の一宗派として、禅は当然「空」観を根本に置いています。禅にとって世界の本質と現実世界に起こる諸現象との関係は、「空即是色、色即是空」の一言に尽きます。つまり、世界は実在せず「空」である。諸現象も実体のない「色」であり、幻である。実在しないものへのこだわりは無意味

でしかないのです。

伝統水墨画が、自然の色と形など自然の模倣を評価しないのは、「空即是色、色即是空」に基づく禅の世界観と一致し、禅と美術の最も重要な接点といえます。

禅の思想の中に、「即心是仏」という言葉があります。禅

は仏が人間のうちに内在することを主張し人間の心がいかにあるべきかを説きました。ということは禅は心の存在を認めたことであり、禅が水墨画に影響を与える所以といえます。つまり芸術とは心の状態を表現するものであり、心の状態が引き起こす感情を表現するものだからです。

禅は「伝心宗」とも言われ、もっとも「心」を重視する仏教の一宗派です。「以心伝心」は禅の代表的な考えの一つですが、水墨画には「写意」という言葉があります。「写意」は絵画を通して対象の精神や画家の感情を見るものに伝えることをいい、禅の「以心伝心」と通じるものがあります。

仏教は、人は事物の一部しか認識することができないと考え、禅は人が現象界のすべてを把握できないなら、事物に心で迫るべきだと説きます。この考えは、蘇軾の「画を善くするものは、意を画きてその形を画かず」に通じ、水墨画の精神を表した言葉そのものです。水墨画は禅の「以心伝心」の思想の裏づけによって、「形似」(形

を似せること)を追求せず、「神似」(精神を描くこと)を求め、その結果において、大きな表現の自由を獲得したといえるでしょう。

「以心伝心」の理想的な境地を伝えるものとして、江戸時代の禅僧江月が「仏を画かば即心成仏、花を画かば伝心花と作る。」と言い、続けて「梅を描いたら、花だけではなくその香りまで描くべきで、滝を描いたら、水の流れる音まで



伝えなければならない」と述べています。このような水墨画であれば、水墨画々論が語る「神品」の位に到達したということが言えるでしょう。

禅では悟りの境地として無心の状態を勧めます。無心と言うのは、現象に惑わされず、純粋な心の状態をいいます。水墨画を創作する時の心のあり方も無心の状態……守神専一、精思澄慮、去欲脱塵など……を理想とします。つまり、画家は、意図的に効果を追求せず、技巧を考えずに描くことに専念するのです。言い換えれば、禅師は無心の境地によって、現象の世界と心と一体となることができ、水墨画家は、自我の「心」を捨て去り「無心」になることで、描く対象の「心」を正確に捉えて「神品」の位に達する作品を創作できるのです。古代の画家達の多くは、無心な状態を創作の重要な方法として実践し、北宋の範寛は、山林の間に終日危坐して山の全容を心の中に入れ、その心のままに描いたと言う話があります。

このように禅は、水墨画を描く方法論においても心のあり方に関して的確な示唆を与えました。しかし、禅が水墨画創作に哲学的な土台を用意したとはいえ、水墨画の精神は、必ずしも禅の思想を受けて形成されたと断言することはできません。確実なことは禅と水墨画は共に中国の伝統的な思想の土壌に芽生えたものであることです。水墨画が禅と共に日本に伝来し、禅僧が水墨画の主な担い手だったことを考えれば、禅が日本水墨画に与えた影響は中国以上であろうといえます。



初心者のための 水墨画教室



1回目 14:00～ 2回目 18:00～
参加費：1000円（要予約）
持ち物：白い下敷き、筆（書道用可）手ぶらもOK

講師：中国人画家 **マン 柏**
1955年、画家一家に生まれる。中国の美術大学を卒業後、1988年、来日。1996年から1999年まで、横浜林光寺の天井画と障壁画を手がける。現在、水墨画講師、大学講師として活躍中。

●水墨画体験講座

12月10日（月）
於：鶴川市民センター・第一会議室
大蔵町1981-4 ☎：042-735-5704
問合せと申込み：TEL/FAX 042-735-6135（野島）



「紫金草」— 花ダイコン

今、日本の春にどこにでも目に付く薄紫の可憐な花ダイコンにはこんな古くて新しいエピソードがあります。

私どもの大先輩である故陸軍軍医/少将・山口誠太郎先生は、戦時下の中国南京で勤務中、紫金山の麓に咲き乱れている「花ダイコン」の美しさに打たれたそうです。その種子を持ち帰り、日本の郷土で栽培し、近隣や知人の方々に種子を送り、花を増やし、又、旅行には各駅停車の列車に乗り、窓から種子を撒いておられました。昭和41年、朝日新聞の「声」欄にお嬢さんが「日本中の人々が花ダイコンの花を見ることができたらと、父は病床で願っています」と投書されました。その2日後に先生は逝去されましたが、この記事の反響は大きく、全国から種子希望が多数寄せられ、ご遺族、関係者の方々が種子を送り続けることになりました。



昭和60年に筑波科学万博の開催が決まり、先生の故郷である石岡市では、先生の思いを受け継ぎたいという方たちが「平和の花・花ダイコンを広める会」を結成し、万博に来場される外国の方々にも小袋に入れた種子と、「この花の種子は、故山口さんの平和を願う心が込められている」との短文を添えて配布することが決まりました。この計画は、朝日新聞の「天声人語」(昭和59年6月10日)で紹介され、「以前に配られた花の種子を送って欲しい」と呼びかけられました。

私の手元の『陸軍薬剤将校追想録』(平成3年8月刊)に故山口先生の記事があり「中国より持ち帰られた種子が広く日本中に広がるきっかけとなった」と記されています。又園芸植物図鑑には、中国原産で、戦後に日本中に広がったと書かれたものもあります。……………(以下省略) (小山芳雄)

「麻生区地域セミナーOB会」グループ紙「まちはミュージアム・だより」05年夏号掲載

上記の短文を、「まちはミュージアム・だより」に投稿後、調べてみたところ、紫金草に関わる活動が劇的な展開をしていたことが分かりました。

山口誠太郎先生が、日中戦争で戦場となった南京の戦禍の跡に咲く花ダイコン(中国名：諸葛菜)を紫金草と名づけ、平和のシンボルとして日本中に広げたいことを願っていたことにより、先の筑波科学万博の折は、種子を詰めた小袋、約100万袋が「花ダイコンを広める」会の方々によって来場者に渡されたとのことです。

この花を全国に広めようという意志はその後、ご子息の山口裕医学博士を会長とする「緑の手帖の会」が結成されて運動が続けられ、平成9年頃には「紫金草」の歌を歌う平和運動としての合唱団もできて、平成14年には南京市「青春劇場」で1000人近い観客を前に、日本各地から参集した大合唱団が組曲「紫金草」物語を公演し、「北国の春」「ソーラン節」他で一般市民の方々との交流に大きな反響と成果を上げたとのことです。

この南京市に、広島、長崎と並ぶ大きな中国の平和公園の建設が進められ、この公園の中に「日中友好平和の紫金草花園」を作る計画が許され、賛同される日本人からの資金募集も行われています。

先般来、中国で反日デモが荒れる中、南京市が平穏だ

ったのは、南京副市長が頑としてデモ行進を許可しなかったことによるもので、これは「日本と中国との民間の交流があったことが幸した」と中国人友人が書いたたよりを、藤沢市のI氏が「南京でデモがなかったわけは」というタイトルで、朝日新聞「声」欄に投書し掲載(2005年6月7日)されました。

紫金草合唱団は全国的な広がりとなり、既に終了してしまいましたが、今年10月7日には、府中グリーンプラザのけやきホールにて「平和を希うコンサート」として開催。今年12月中旬には南京と上海での公演を予定。一方、南京からは南京和平的藝術団が来日し、11月30日に池袋のみらい座(旧豊島公会堂 18:30～ 協力費:1000円)で「龍の踊り」が、紫金草合奏団の公演とともに披露されるとのことです。

今では雑草のように扱われている紫金草ですが、「平和の花」として広く咲かせたいものです。

- ▶「紫金草」(花ダイコン): 中国名「諸葛菜」
花期: 3月から5月。紫色の大根の花に似た花を咲かせる。諸葛孔明が出陣の先々で、種を蒔き、食料として育てたという言い伝えがあるが、実際は蕪だったらしい。
- ▶「緑の手帖の会」事務局 Fax 0299-48-1755
茨城県小美玉市堅倉 1696-75

お天気に恵まれた「第10回町田発国際ボランティア祭・2007夢広場」

2007年11月4日/日 於：ぼっぼ町田/浄運寺/まちかどギャラリー

今年の夢広場は、開催を始めて10周年目、^{ラオティエン}老天もお目出度うってか減多にないような穏やかで温かい日和に恵まれました。会場はこれまでのぼっぼ町田、街かどギャラリーに、中央商店街を少し横に入った浄運寺の境内が加わり、初めて3会場での開催でした。

主会場のぼっぼ町田では、民族芸能上演の仮設舞台をはさんだ参加団体の11張のテントでそれぞれの支援国の料理が披露され、一番奥まったピロティでは国際ソロプチミスト町田さつきにより日本を代表してお茶席が設けられました。お天気の支援もあり仮設舞台の民族芸能を見入る人でステージ前の椅子も、ぼっぼ広場に下る階段も満席状態でした。

また、浄運寺境内では14団体の物品の販売で、さながら民族バザールの趣。浄運寺は古い由緒もあるお寺で地元の人には馴染み深いのですが、商店街側からは細い通りを抜けた奥なので、浄運寺境内への人の流れが心配されましたが、路地入口の可愛らしいステージが人を呼びこみ、境内に設えられた舞台を楽しむ人も多くいました。ラオスのクラフト販売で、初めて参加の「ラオス山の子ども文庫基金」の安井清子さんのところもまずまずの売り上げがあったとのこと。

舞台では、アフリカパーカッションのアフリカ人演奏家やプロとしても認められている鈴木理恵さんグループのバリ古典舞踊、内モンゴルでの公演で評価を確立したTOKYO万馬馬頭琴アンサンブルなどなどが次々に入れ替わり出演。充実しすぎて店の方に人が来ないという意見も出たくらいにハイレベルの内容でした。

風もなく優しい秋の日差しの中、ちょっと珍しい味を味わったり、可愛らしい民芸品に触れたり、仮設舞台で繰り広げられるさまざまな民族芸能を楽しんだ人たちは、海を越えた国々の文化や民族がとても親しみ深く感じたことでしょう。ぼっぼ町田と浄運寺、両ステージ出演の皆様はご苦労様でした。

さて、「わんりい」は、昨年同様、遊牧民風味のエスニック焼鶏を販売。今年は、馬頭琴演奏のチ・ブルグッドさんが^{うんちく}濫蓄を語りながらしばし焼鶏を焼き、午後は、お祭の様子を覗きに見えた、豪傑を役どころとする京劇俳優の殷秋瑞さんが、田井の心もとない手付きを見かねてか、大きな身体を屈め、なんと全部売切れるまで手伝ってくださいました！



ぼっぼ町田会場



浄運寺会場



殷秋瑞さんの応援

‘わんりい’の焼鶏は、元はといえば殷秋瑞さんらの指導でメンバー達が‘町田まちづくり・わいわい祭’や‘麻生リサイクル市’で売り始めたもの。さすが本場仕込みの馴れた手付きで味も上々、好評でした。

参加下さった‘わんりい’の皆さんは9名、焼鶏はそれなりに頂いたとのことですが、早朝からの参加の上に気が付いたらお昼も取らずに終わっていました。それぞれ、会場を巡り楽しい一日を過ごしましたとおっしゃってくださったものの、本当にご苦労様でした。

終了間際になって皆で1個ずつ食べた、日本スリランカ武道交流会のサモサは、とても美味しかったこと！

(報告：田井)

映画上映とお話 **チェチェンは今**

映画「踊れ、グローズヌイ！」
—呪われたものと聖なるもの—
監督：ヨス・デ・プッター

第1回シカゴ国際ドキュメンタリー映画祭グランプリ/コペンハーゲン国際ドキュメンタリー映画祭大賞/第13回サンクト・ペテルブルグ「人類へのメッセージ」国際映画祭ケンタウロス賞 他受賞

2007年12月8日(土) 14:30開始(14:00開場)
於：町田市民ホール第4会議室

町田市森野2-2-36 小田急線・町田駅西口改札口/
JR横浜線・町田駅ルミネ口改札口 徒歩5分

会費500円

14:00:開場
14:30~15:45 「踊れ、グローズヌイ」
15:50~17:00 講演会
「チェチェンで何が起きているのか」

講師：大富晃(チェチェンニュース編集・発行人)

主催 アムネスティ町田グループ
共催 (財)町田市文化・国際交流財団
TEL/FAX:042-722-4692 稲野

僕は13歳 職業、兵士

~ウガンダの元子ども兵が教えてくれたこと~

内戦が続くウガンダの事例を、写真を使って紹介しながら、紛争の中に生きる子どもたちが、子どもらしく生活できる社会の実現に向けて、私達に何ができるのか。

- ・講師講師：鬼丸昌也 テラ・ルネッサンス「平和NGO」代表
- ・12月11日(火) 10:30~12:30(10:00開場)
- ・杜のホールはしもと・ミウイ 8F 多目的室
(相模原市橋本3-28-1/JR横浜線北口徒歩2分
京王相模原線橋本駅徒歩5分)
- ・無料 ・定員：100名 満席になり次第締め切ります。
- ・主催：コープとうきょう 7ブロック
- ・問合せ&参加申込み：03-3387-5665
(コープとうきょう 参加とネットワーク推進室 9:00~17:30)

アフリカン・ドラムは魂の響き Vol.2

2007年12月22日(土) 19:30開演(18:00開場)

於：Live & Diner クロップ 参加費：2,500円
町田市小川2-28-13 TEL/FAX042-799-7551
JR横浜線・成瀬駅南口徒歩6分

パーカッション：MUKUNA(コンゴ民主共和国出身)
サクソ：TABU キーボード：M.ENDOH
ピアノ：T. SAITO
問合せ&参加申込み：090-6182-8399(河上)

HAKUJU HALL シリーズ6

【中国の楽器・その音の広がり その6】

費堅蓉一心ゆるがす大三弦

世界で唯一の、あらゆる撥弦楽器(弦を弾く楽器)の名手費堅蓉。今回は、その中でも専門中の専門である大三弦、独奏されることの少ない中阮を堪能。費堅蓉自作自演の新曲、津軽三味線とのセッションもお楽しみに。

- 日時：08年2月3日(日) 14:00開演(13:30開場)
- 於：HAUJU HALL(小田急線「代々木八幡」または東京メトロ千代田線「代々木公園」より徒歩5分)
- 料金：全席指定 ¥5,000(前売り) ¥5,500(当日)
- 出演：費堅蓉(大三弦・中阮) / 小林健作(中阮・ギター) 馬平(打楽器)
- ゲスト：賈鵬芳(二胡) / 佐藤通弘(津軽三味線)
- 主催・企画・制作：ラサ企画
- 後援：中国大使館文化部 / 日中文化交流協会 / (社)日中友好協会 / (財)日中友好会館
- 問合せ&予約：ラサ企画 TEL/FAX 03-5748-3040
E-mail lasanon@db3.so-net.ne.jp

霸王別姫藝術展 入場無料

2007年12月20日(木)~23日(日) 9:15~18:00

於：神奈川県県民ホール・ギャラリー(山下公園前)
第1・2・3・4・5展示室

みなとみらい線「日本大通駅」徒歩6分
JR根岸線「関内駅」徒歩約15分

主催：RED MISSION
RED MISSION JAPAN
協賛：(株)アスミック・エース
エンタテインメント
湯臣電影(香港)有限公司
問合：神奈川県民ホール
☎045-633-3723



銭騰浩さんの初めてのCD / 07年8月26日リリース
笙「鳳凰の響き」 3000円(税込み)

日本でただ一人の中国民族楽器「笙」の演奏者「銭騰浩」の初アルバム

笙=銭騰浩 二胡=甘建民 琵琶=王晓東 ピアノ、シンセサイザー=磯村由紀子

収録曲

1. 藍色水郷腑
2. MUSESONG
3. 故郷
4. 青草
5. 南国片思
6. 新世界
7. 春天的風
8. 慢長的道
9. 木星
10. 小街
11. 回想上海
12. 鳳凰展翅



●12月定例会 12月18日(火) 田井宅 13:30~

●新年号発送日 12月27日(木) 田井宅 13:30~